

2015年度 学校評価報告書（京都聖母学院幼稚園）

学校目標 (園目標)	カトリックの人間観・世界観にもとづく教育をとおして、子どもたちの心を、たくさんの「大好き」でいっぱいにする。
---------------	--

校長名 (園長名)	寺井朝子
--------------	------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことが大好きな（自己肯定感をもつ）子ども、お友だちや周りの人が大好きな子どもを育てる。 ・様々なことに興味関心を持ち、何事にも積極的に行動できる子どもを育てる。 ・地域貢献や子育て支援の充実をはかる。 ・研修をとおして、教員のスキルを上げる。
------	--

学校自己評価				
目標		評価		
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果	次年度への課題と改善
1	・自分のことが大好きな（自己肯定感をもつ）子ども、お友だちや周りの人が大好きな子どもを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の担任による宗教教育に加え、宗教担当者による神様のお話を年間3回聴く。 ・月1回の学年合同集会を実施する。 ・週1回の全学年合同集会を実施する。 ・たくさんの友だちや教員、来園者と関わりを持ち、考えや思いを伝えあったり共有することで、信頼関係を築けるよう導く。 ・震災復興支援バザーをとおして、被災地のことを過去のものとして、自分たちにできることを考え、行動に移していけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各担任によるお祈りや宗教の絵本や紙芝居の読み聞かせ、各学年で合同集会を行い、管理職による神さまのお話を聴くことで神さまへの関心が高まった。一方で全学年の合同集会は週1回実施できず、各時期の節目のみの実施となった。 ・日々の保育の中で、自分の思いを言葉で伝えていけるように指導し、教員が一人一人の思いに寄り添いながら、相手とのコミュニケーションをとれるよう援助していくことを心がけた結果、「ありがとう」「ごめんなさい」「いいよ」など、素直に言える子どもたちの姿が見られた。 ・震災を風化させず、4年以上経った現在でも復興にはまだまだ時間を要することをわかり、心のこもったバザーを実施することができた。また、福島県のつつみ幼稚園と繋がりを持つことができ、手紙等の交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の宗教研修を実施し、スキルアップを図る。また、今年度以上に他所属の聖堂訪問を積極的に行う。全学年集会や学年集会の在り方を考え、時間の確保と内容を精査する。 ・子どもたちの日々の様子を把握し、保育に活かすとともに、保護者との連絡を密にし、園での子ども様子を伝えることで安心していただいたり、ともに考えていくことで、より連携を強化していく。 ・震災が過去のこととして忘れられることのないよう、今後も活動を続ける。また、支援の仕方も寄付だけでなく、現地との交流（手紙等）も含めて検討する。
2	・様々なことに興味関心を持ち、何事にも積極的に行動できる子どもを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間体験活動の増加に加え、栽培・収穫の活動を全学年で実施する。 ・他所属との交流会や小学校の体験授業を実施する。 ・園庭遊びの時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の全学年による書道体験、京都中央卸売市場による「出張市場お魚先生」の実施、また、栽培・収穫については、芋ほりに加えて玉ねぎ引きを実施した。 ・小学生から短大生までが園児と交流し、各所属それぞれの学びとなった。また小学校の体験授業や各種交流会は大変子どもたちが喜び、小学校進学への希望が高まった。 ・園庭での活動においては自由遊びに加え、サーキット遊びを充実させた。晴天時はほぼ毎日実施することで、子どもたちの体力の向上に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正課の体操や英語の他、書道や、生活に基づいた食育の体験活動に子どもだけでなく保護者からも喜んでいただけた。一方で、保育カリキュラムの内容が過密になることで、子どもたちの負担にならないように精査していくことが必要である。 ・各所属との交流は、一貫教育・内部進学よさを知っていただくよい機会であるので今後も続けていきたい。 ・サーキット遊びの充実により、子どもたちが怪我をすることが少なくなってきた。今後、園庭での自由遊びによる、サッカーや鬼ごっこなどの集団遊びを充実させる。
3	・地域貢献や子育て支援の充実をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援イベント「せいぼであそぼ！」を年間9回実施する。 ・子育て支援サロンでの子育て相談の実施（希望者対象に毎週水曜日実施） ・地域子育て支援講演会を実施する。 ・未就園児保育の充実をはかる。（管理職による子育て相談や面談の実施） ・園庭開放を年間5回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児とその保護者の方が参加くださり、本園の教育や取り組みについて関心を持っていただくことができた。 ・子育てに悩む在園児の保護者や地域の保護者の方の利用があり、本園を身近に感じてもらえる機会となった。 ・講師の戸田奈津子氏による「英語」をテーマとした講演内容にたくさんの参加があった。 ・子育て経験のある管理職が子育て相談をすることによって、より保護者や子どもをサポートすることができた。担任と連携することでスムーズな保育も実施できた。 ・安全な遊び場を提供し、なおかつ園の施設を知っていただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育と体操に興味をもっている参加者が多い。次年度はそこにポイントを置き、保護者のニーズに応えられるよう努める。 ・年間を通して利用者数は少ないものの、実施していく必要がある。今後もホームページやチラシなどで周知を図る。 ・子育てについて保護者が知りたい内容や情報を精査し、講師・講演内容などを考えていく。 ・未就園児保育には次年度も管理職による面談を実施する。
4	・研修をとおして、教員のスキルを上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を年間3回実施する。 ・管理職による新任研修・保育参観指導を実施する。 ・カリキュラムの見直しと再構築をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職による宗教研修・ベテラン教員によるエッセイズ研修・社会人基礎研修を実施した。 ・管理職による保育参観指導を行った。個別に指導していくことで、より高い保育スキルを身につけていけるようにした。 ・体験活動の増加等により、保育の時間配分や年間カリキュラムの見直しを行った。次年度より保育内容が充実したものとなるよう、カリキュラムを再構築した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の回数を増やし、さらなる研鑽を重ねる。 ・新人教諭にとどまらず、全職員の研修や保育参観等を計画し、園としてのスキルアップに繋げていく。 ・保育内容を精査し、よりレベルの高い教育が実施できるよう、月案や時間割の内容についても見直ししていく。

学校関係者評価	
実施日	2015年 10月 5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>【保育内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動が充実してきたことがよい。さらに増やしてほしい。 ・縦割り保育の日数を増やしてほしい。 <p>【園生活について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝・預かり保育はとても助かっている。もっと日数を増やしてほしい。 ・子どもたちが家でお祈りをしたり、その日教えてもらった歌を口ずさみ、園での様子が子どもを通してよくわかる。学年便りやホームページでもより一層わかりやすく伝えてほしい。 <p>【行事について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに子どもの成長がみられ、満足している。 ・クラス委員と教員の繋がりを強化することで、スムーズな行事実施がかなうのではないかな。 <p>【家庭との連携について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談日以外でも、子どものことを相談できるよう、より、電話や声かけの回数を増やしてほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでなく、保護者の教育も必要である。（マナーなど） 	